

○ 10月23日(木)

## 小中・府立学校スクールミーティング (京丹後市立網野南小学校・府立網野高等学校)

### ○ 畑 委員長



秋空に恵まれた一日、京丹後市の網野地域を訪問しました。目的は、網野高校間人分校、網野高校本校、そしてその高校生がボランティアで活動する京丹後市立網野南小学校の視察でした。

間人分校では、昼間定時制という学校概要の説明を聞き、いくつかの授業を見学しました。4年間の時間をかけて自分のリズムが見出せるように、また社会参画への自信が生まれるような様々な取組がなされていました。個性豊かにゆっくり歩を進める子どもたちとその目線に合わせてきめ細かく指導される先生方のお姿に、応援させていただきながら見守っていかうと認識を改めさせていただきました。

網野高校本校は、地域に支えられて多くの人材を世に送り出してきた名門です。私自身、体操部・レスリング部の練習場をぜひ見学したいと願っていました。競技場と同じ品質という練習場では、体操の床運動場とレスリングのマットが並んでいます。私も初めてその二つの上に立たせていただき、全く違う競技の世界を体感することが出来ました。壁面には、日本代表としてオリンピックなどの世界大会で活躍する卒業生たちの名札が、年度ごとに掲示されていました。後輩たちの練習を見守り励ましてくれるのですね。授業風景をいくつも見学しましたが、廊下など校内がとても美しく、階段の隅にも毛玉一つ落ちていません。みんなで磨いているかのようでした。

さて、その網野高校生の有志が、放課後の時間を利用して近隣の小学校に出向き、算数の自習などを助け、小学生に良きお兄さんお姉さんとしてマンツーマンでひと時を共に過ごしています。あまり見たことのない取組でした。夕刻、その高校生たちと懇談の時間を持つことができました。都会とは違って地域社会に塾などが少ないことがヒントになったようです。クラブ活動など自分の時間として有効に使いたい貴重な放課後に、このような形でボランティア活動を行うことについて尋ねてみたところ、「将来教職を目指す上でとても貴重な体験になる」とのことでした。また、小学生に算数問題の解き方を指導することで、頭の中で理解していることを今一度整理して自分の言葉で説明できるように反芻し、初めて本当の意味で身についたと実感できるようです。他者のために自己の時間と知恵を提供することで、社会参画の意義を体験する素晴らしい機会なのだと感じました。このような高校生たちの姿を頼もしく感じたとともに、彼ら彼女らが将来地元に戻り、また次の世代に影響を与え続けてくれるよう願っています。

○ 10月23日(木)

## 小中・府立学校スクールミーティング (京丹後市立網野南小学校・府立網野高等学校)

---



### ○ 安藤 委員

網野高校の特色ある教育活動と丹後管内での学習サポート事業（小高連携）の取組を拝見いたしました。

高校生による小学生への放課後学習サポート「プラスワンスタディ」は、5、6年生の児童一人一人の学びのペースに合わせ、高校生が側で見守りながら課題学習を進めるという取組です。

初対面の高校生を前に、小学生の表情は緊張でいっぱいでしたが、「よくできたね!」「次も同じように考えてみて」などの高校生の声かけにより、次第に緊張もほぐれ、笑顔を見せながら課題に取り組む姿は微笑ましく、従来の補充学習よりも親しみやすい空気がとても新鮮に感じられました。小学生にとってはこの学習の中で、迷っているところや、分からないところをすぐに聞くことができ、個々のペースで学習を積み重ねられます。身近な先生や大人ではない高校生が側にいることで、近い将来への希望や憧れも抱けると思います。

また、高校生は思いもよらない返答や質問を受け、どうしたら分かってもらえるか、など「教えることの難しさ」をそれぞれ感じ、言葉を一つ一つ選びながら熱心にサポートしていました。

高校生との懇談の中でも、「今までやってきた学習の意味や理由を考えるようになった」「自覚や責任感が生まれた」など、各々がこれまでに取り組んできた体験や学び得たことを語る姿は、堂々としていてとても頼もしく感じました。

網野高校では他にも「琴引浜や学校周辺の清掃」、「日本海沿岸の漂着物調査」等海に近い学校特有の活動や、様々な地域行事の支援など、多岐多様に渡るボランティア活動も行っています。また、地元の文化や郷土食などを題材にした課題研究に取り組む専門学科の活躍にも注目や期待があります。生徒にとっては社会実践の場所がすぐ近くにあること、研究活動へ活かすことができること、そして地域にとっても若い人材を活用でき、地域活性にも繋がるなど「地域と学校のコラボレーション」はとても温かく感じられました。

伝承されてきた地元特産の「バラ寿司」にも家庭やお店によって味の違いがあるように、学校や地域の特色もそれぞれ違います。街の中に溶け込む書道部の俳句看板を一例に、学校の周りは高校生たちの手がけたものやアイデアでいっぱいです。今後もこの地域にとどまらない特色ある多様な活動を発信し続けていってほしいと願っています。